



国土交通省
信濃川河川事務所

記者発表資料

平成26年 3月 28日

本資料の配付をもって解禁

信濃川河川事務所 平成26年度予算を公表

～大河津分水路改修の調査検討、上片貝地区・竜光地区等 築堤 ほか～

平成26年度予算は3月20日に成立し、本日、国土交通省関係の予算が公表されました。

信濃川河川事務所の平成26年度主要事業は、大河津分水路の改修に向けた調査・検討、平成23年7月新潟・福島豪雨に対応した築堤工事等になります。

平成26年度当初の河川改修にかかる当初予算は、37億5千8百万円です。

主要事業の概要は、以下を参照ください。

- 大河津分水路改修の調査検討に着手 参考資料1
- 平成23年7月新潟・福島豪雨対応(上片貝地区、竜光地区) 参考資料2

(参考)

<本省HP>

- 国土交通省全体の概要
http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000592.html
- 県内の事業箇所一覧
http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000659.html

<北陸地方整備局HP>

- 北陸地方整備局の概要
http://www.hrr.mlit.go.jp/library/yosan/H26/jigyoku_keikaku/index.html

同時発表記者クラブ

長岡市記者会、長岡地域記者会、
十日町記者クラブ、
三条市記者室、小出郷新聞、
越南タイムス、FMゆきぐに
建設業界向け専門紙

【問い合わせ先】

北陸地方整備局 信濃川河川事務所
広報担当 専門官 清水 克之

電話)0258 - 32 - 3020(内線406)
FAX)0258 - 33 - 8168

しなのがわ おおこうづぶんすいろ
信濃川 大河津分水路改修の調査検討に着手
 にいがた ながおか つばめ
新潟県長岡市、燕市

事業の概要

大河津分水路は信濃川の洪水から越後平野を守るため、大正11年（1922年）に通水した延長約9kmの放水路ですが、分水路河口に向かい川幅が狭まる形状のため流下能力が不足しています。平成23年7月洪水では、分水路直上流で計画高水位を超過し、危険な状態となりました。また、分水路建設後90年以上が経過し、施設の老朽化・機能低下も顕著になっています。

大河津分水路が決壊した場合、洪水氾濫による影響は新潟市街地にまでおよび、甚大な被害が発生する恐れがあります。また、大河津分水路より上流側に位置する信濃川（中流部）や千曲川をはじめ、信濃川水系全体の洪水処理能力を向上させるため、最下流に位置する大河津分水路改修を優先的に実施する必要があります。

整備効果

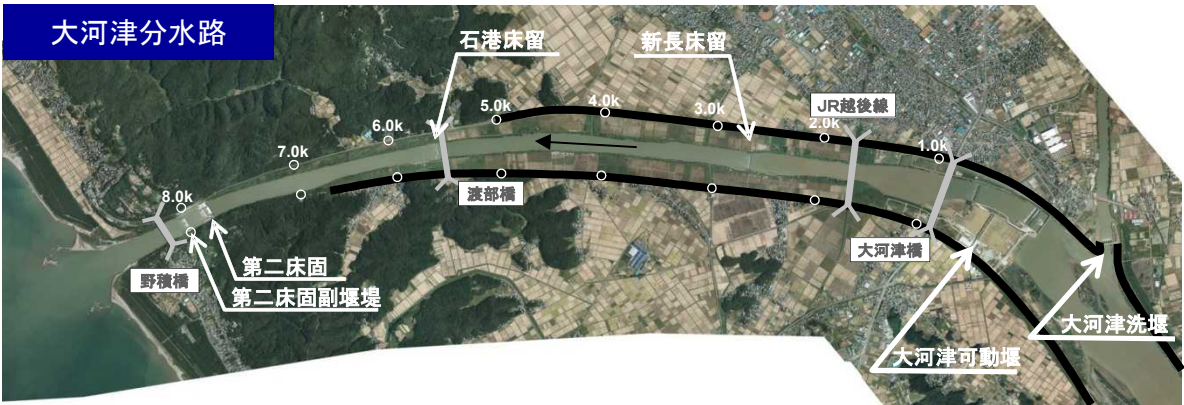
大河津分水路の改修により、信濃川水系全体の治水安全度を向上させます。

平成26年度の事業内容

大河津分水路の抜本的改修に向けて、詳細設計等の検討のための現地測量等に着手します。



平成23年7月洪水時の第二床固



流下能力が不足し、抜本的な改修が必要な大河津分水路

しなのがわ
信濃川 平成23年7月新潟・福島豪雨対応
 かみがたかい りゅうこう にいがた おぢや うおぬま
(上片貝地区、竜光地区) 新潟県小千谷市、魚沼市

事業の概要
 平成23年7月新潟・福島豪雨においては、堤防が未整備であった小千谷市上片貝地区で家屋の間際まで洪水が押し寄せ、家屋浸水の恐れがありました。また、支川魚野川において一部区間では計画高水位を超え、竜光地区では魚野川の水位上昇により支川芋川合流点付近の無堤区間から家屋浸水被害が発生しました。上片貝地区及び竜光地区の芋川合流点処理を進めるため、堤防を整備し洪水被害の軽減を図ります。

整備効果
 堤防整備を行うことにより、上片貝地区及び竜光地区の治水安全度を向上させます。

平成26年度の事業内容

平成23年7月新潟・福島豪雨に対応するため、小千谷市上片貝地区及び魚沼市竜光地区において堤防整備を推進します。

上片貝地区
 国道117号
 信濃川 ①

竜光地区
 関越自動車道
 芋川
 魚野川
 宇賀地橋 ③

① 上片貝地区
 信濃川

② 宇賀地橋
 魚野川
 竜光ポンプ場
 芋川

③ 芋川

平成23年7月新潟・福島豪雨による浸水状況 (H23.7.30撮影)